

全国の舞台で輝く

今年2018年は、中国インカレを総合優勝で勝ち抜き、両クラスともに蒲郡での全日本インカレに出場することができました。全日本インカレ総合6位入賞を目標に一年間ヨットに向き合ってきましたが、その大舞台で良い成績を残すことはできず、悔しい思いをしました。

来年2019年こそは、全日本インカレに自信をもって臨むことができるように、練習、部の運営に真摯に向き合っ、全力で戦い抜きます。

2019年の目標

- まず、3月16・17日に行われるスプリングレガッタで全艇10位以内に入ることが初めの目標です。スプリングレガッタまでは、動作の統一を行い、基本を身に付けることを徹底します。スプリングレガッタではこれまでの練習の成果を発揮できるかどうか順位に反映してきます。
- 5月初旬に行われる関西学生ヨット春季選手権大会では打倒関学を目標としています。全日本インカレでも毎年活躍している関西学院大学と対等に戦えるようになるということは、中国インカレではもちろんのこと、最終目標としている全日本インカレ入賞のための大きな力となります。
- 中四国インカレでは全日本個人選手権大会の出場枠を独占することが目標です。中国インカレに出場する大学がほぼ揃う大会で成績を残し、また全日本で戦えるという経験ができます。
- 9月初旬全日本学生ヨット個人選手権大会で全艇30番以内に入り、私立大学と競えることを目標としています。ここでの成績は最終目標に直接かかわってくるものとなるでしょう。
- 中国インカレで完全優勝することを目標としています。全日本インカレに出場するための絶対条件であり、他大学とここで圧倒的な力の差を作ることで、最終目標への最終アプローチとなります。
- ◎そして11月、全日本インカレで入賞することが最終目標です。今まで行ってきたことを確実にこなしていくこと、そして途中目標を大切にすることによって達成されます。

新幹部挨拶

68代(次期4回生)

役職：主将 うまりたい

来年の目標は、全日本インカレ入賞です。今年は、中国インカレで総合優勝し、全日本インカレに駒を進めることは出来ましたが、良い成績を残すことは出来ませんでした。来年は、出場するだけでは終わらせません。今年、先輩方が変革し、強くなった岡山大学ヨット部を全日本インカレという大舞台でも闘うことの出来るさらに強いチームにするため、突き進んでいきます。今後とも応援よろしくお願い致します。

役職：副将、スナイプ級リーダー 切り込み隊長

「来年も全日本インカレ入賞」を目標に掲げ新体制は始動しました。今年は誰も全日本の舞台を知りませんでした。67代の方々を筆頭に岡山大学ヨット部を今までに類を見ない強い部活に導いてくれました。全日本で戦うということを経験した私たちはさらなるステップアップが必要とされます。支えてくださる皆様の期待に十二分に答えるべく68代を筆頭に岡山大学ヨット部をもう何段階も成長させていきますのでどうかよろしくお願いいたします。

役職：470級リーダー ほたて

先輩方の残してくれたものをしっかりと受け継ぎ、470チームを今年以上のチームにして、全日入賞にむけて尽力して行きたいと思えます。応援の程よろしく申し上げます。

69代(次期3回生)

役職：総務 マイク

これから幹部を務めさせていただくこともあり、自分のことだけではなく、部全体に目を配って行動します。そして、目標である全日本インカレ入賞に貢献できるよう精一杯取り組んでいきますので、何卒よろしくお願いいたします。

役職：主務、副スナイプ級リーダー サンシャイン

幹部として部を運営することの責任を持ち、さらには副スナイプ級リーダーとして技術はまだまだ未熟ですが、練習でチームを鼓舞して実りある練習になるよう努めて参ります。今後とも宜しくお願い致します。

役職：会計　こすりん

この度会計を努めさせていただくことになりました。もう既に先輩達について行くだけの時期は終わり、自分達が部活を引っ張っていく番だということを、役職につくことでよりひしひしと身をもって感じています。行動面だけでなく、技術面でもチーム引っ張っていけるような人材になれるように務めていきます。今後も何卒よろしくお願いいたします。

役職：学連　ふにやふにや

幹部になったことで、上回生についていくだけでなく、自分の行動に責任を持ち、部の運営に積極的に参加します。来年の中国インカレでは、円滑な運営が行なえるように頑張ります。至らぬところも多々あると思いますが、ご支援宜しくお願い致します。

役職：県連　パンダー

昨年までは下級生として何もわからないまま活動してきましたが、今 2 回生として幹部になりました。まだわからないことが多くご迷惑をおかけするかもしれませんがよろしくお願いいたします。

役職：幹事　わらび

幹部として活動していくにあたり、目標達成のため積極的に部の運営に関わっていきます。また成績面でも部に貢献できるよう、先輩方の背中を追い、後輩の良き見本となれるよう精進します。宜しくお願い致します。

役職：遠征係　むつつりん

入部して 1 年半が経過し、とうとう後輩という立場から部の運営に携わる幹部の立場になりました。これからは上回生としての自覚を持ち、ヨット部の中心となって主体的に行動をしていく所存です。また、遠征係として、円滑な遠征運営及びに部員の技術向上になるような遠征を計画していきます。様々な点でご迷惑をおかけすることが多々あると思いますが、今後も引き続きご理解とご支援の程、何卒よろしくお願い致します。

役職：副 470 級リーダー　いいちこ

470 副リーダーとしてはもちろん、個人としても成績を残せるように意識を高く持ち、日々の練習に愚直に取り組みます。謙虚な姿勢で来年も全日本で戦えるよう様々な面で努力して参ります。何卒よろしくお願いいたします。

全日本インカレを終えて

ほたて (68代・470級クルー)

私にとって初めての全日本インカレは、ほんとに苦しい4日間でした。1年間この舞台で勝つために頑張って、徐々にレースでいい結果も残せるようになり、この1年の集大成と思って全日本インカレに臨みました。しかし、ほとんど何もできずに負けました。なによりも悔しかったのは負けたことよりも、私が今まで培ってきたことを出し切れなかったことでした。もっと自分はやれていたんじゃないか、そういう類の後悔は、私が一番したくなかったことでした。一緒に乗らせていただいた主将のバトンさんにも、1年間本当に熱心に教えて下さったコーチの方にも、たくさんの支援や援助をしていただいたOBの方々にも、申し訳なさしか残りませんでした。しかし、私にはもう一度この悔しさ、やるせなさを全日本インカレにぶつけるチャンスがあります。これからの1年目標に向かって悔いのないように精一杯やりきるつもりなので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひします。

うまりたい (68代・スナイプ級スキッパー)

去年のレースシーズンを振り返って、一番印象に残っているのは、中国インカレです。レースメンバーはもちろんのこと、チーム全体が自信に満ち溢れていたように思います。それは、夏に数多くのレベルの高いレースに参加させてもらうことが出来たからです。全日本スナイプで日本のトップレベルの社会人選手や学生と走り、全日本インカレ個人戦では、学生トップレベルの選手たちと走りました。それが「中国インカレでは負けない」という確かな自信に繋がりました。レースは土日の2日間を予定していましたが、初日は全く風がなくノーレース。1日だけのレースで決着がつくことになりました。1レース目を終え、3点差で広島大学に負けていました。焦りはありましたが、いつも通り走ることが出来れば負けるはずがない、という自信がありました。そして岡山大学は470級、スナイプ級ともにレースを終える度に着実に順位を上げ、完全優勝することが出来ました。

全日本インカレでは、大舞台の空気に飲まれて、各々自信を持ってレースに臨むことが出来ていなかったように思います。来年は、今年よりも強くなって、全日本インカレに自信を持って臨みたいです。そのためにも、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ致します。

切り込み隊長（68代・スナイプ級クルー）

全日本インカレで私はスナイプチームの1人として戦いました。中国インカレではダブルクルーとして登録されていた同じく68代のこねこねがレースに出て、いわば私は全日本の舞台に連れていってもらった形となりました。そのような境遇もあってか、中国インカレ直後は絶対に勝つんだという意思が強くありました。全日本インカレでは川上一憲さんからお譲りいただいた30310に乗らせていただき、スキッパーには67代のエープラさんと組ませていただき、この上ない環境でセーリングをさせていただきました。しかし、レースが近づくにつれ絶対に結果を残さないといけない、いや、残すことしかありえない状況にある自分を見つめると、プレッシャーに押しつぶされそうでした。

レース本番を迎え、初日から雰囲気や経験の差、蒲郡の海に吞まれ結果は奮わず唯一のシングルを取れたレースでは納得のいかない抗議の末、文字を付けてしまいました。私の全日本インカレを終えての感想は正直最悪そのものです。しかしながら時間は残酷なもので、下を向いていても67代は引退し、私たち68代が引っ張っていかないといけない新体制はやってきます。このまま全日本インカレを最悪なもののままにすることは絶対に嫌です。リベンジという意味も込め、来年も必ずや全日本の舞台に上がり、成し遂げられなかった入賞を果たしたい、果たすことができる部活に作りあげていきたいと、また意思を強く持っています。どうか応援よろしく願いいたします。

ヨット部に入って

ラブ（70代・470級スキッパー）

私がヨット部に入った理由は風だ。初めての試乗会は風が5～6m吹いていて、その風でのトラップーズは本当に気持ちよくて楽しくて魅力的だった。部活をやらなかったと思っていた私だったが、そんな新しい刺激と先輩方の温かい雰囲気に惹かれた私は岡大ヨット部の一員となった。部活に入って知ったが、牛窓は風があまり吹かないのが少し寂しい。風を、スピードを求めてしまう。私はスキッパーであるが最近の悩みはフリーでどんどんラフしたくなってしまうところだ。艇のスピードは速いほうがいいが相対的に速く走れるようになりたいと感じる。動作練で精いっぱいには早すぎるが「スピードを角度に」この言葉を肝に銘じたい。

私は友人や知り合いに、なんでヨット部に入っているのかと聞かれることがある。ヨットは土日が無くてお金もかかるので確かになぜだろうかと自問自答していた。入ったばかりのころは楽しいからと、ただそれだけ答えていた。でも中国インカレや全日を経て今は、先輩方のように、うまくなりたい、強くなりたい、勝ちたいと思うようになった。先輩方のおかげで全国の舞台を見ることができたことで、自分の中では想像もつかず漠然としていた「全日入賞」は、少し形ある景色に変わったと思う。もっともっとうまくなってそこに近づけるように、この冬をしっかりと乗り切って速くなりたい。

ランタン (70代・470級クルー)

私がヨット部に入ろうと決めたのは4月の終わりごろでした。大学に入る前は部活には入らず、サークルに入りゆったりとしたキャンパスライフを送る予定でしたが、いざ大学生活がスタートすると、かなりの時間があり、退屈なものだったので、新歓で誘われたヨット部に入ろうと思いました。当時の私にとって試乗会ではじめて乗ったヨットはとても新鮮でヨット部に入る理由には十分でした。

GWが明けて初の部活では、ヨットについての座学や、合宿所で泊まり込みの生活など、刺激的なものでした。しかし、早すぎる集合時間や雨の中の活動と戸惑うことも多くありました。何よりも毎週の土日を削られるのがつらかったです。案の定、最初は22人いた一回生も今では15人となりました。私も最初はやめようかと悩みました。他の大学生たちのような生活にも憧れたりもしました。しかし、ヨット部として過ごしていくうちに、ヨットというものに魅了され、さらに知りたいという欲求が止まりませんでした。ここでしかできない経験もたくさんしてきました。普通の大学生活をしていればこの楽しさは味わえなかったでしょう。今でも時々周りの友達がうらやましいと思う時もありますが、ヨット部に入って悔いはありません。早く立派なセーラーになれるよう日々精進していきたいと思います。

つまみたい (70代・470級スキッパー)

私が岡山大学ヨット部に入部した理由は先輩方でした。大学では部活動はもうしないつもりでしたが先輩方はみなさんととても優しく、そして個性的で楽しい人達で、そんな先輩方に惹かれて試乗会に行った所、いつの間にかヨットの虜になり気づいたらヨット部に入部していました。

入部してからはヨットに乗りたくて乗りたくて70代の友人と順番を争って口喧嘩したこともありました。私にとってヨットは1番の興味の対象で、勉強で暗記するのは嫌いですがヨットの座学は学ぶことがとても楽しく感じます。同回生と自分達の疑問をお互いに相談し合って先輩方に尋ねたりしてそれを次の練習に活かすよう努力し、成長出来たことを感じてさらにヨットが好きになっていきました。また、先輩方が練習で忙しい時はOBさんが私達1回生の練習を見てくれることもあり、大会の運営などでは必ずOBさんがお手伝いに来て下さり、そこで一緒に運営の手伝いをした時などはレースの解説や様々なアドバイスをして下さいます。岡山大学ヨット部で自分は今70代で、その事を考えると私が今ヨットに乗れているのは伝統を継ぎ、支援してくださっているOBさん方のおかげだと思います。その伝統を誇りに思い、そして発展させていけるよう更に精進していきます。